

歴史・文化財

時代の変遷とそれを見守る文化財の数々

現在の四日市のあたりには旧石器時代から人々が住み始め、縄文・弥生時代の遺跡や古墳時代の出土品が多く見つかっています。また、倭建命伝説や壬申の乱などからは、この地域の古代の姿を垣間見することもできます。

8～10世紀には仏教文化の広がりが認められ、江戸時代に入ると、東海道江戸から43番目の宿場としても栄えるなど、人・物・情報が行き交って文化の集積が進んでいきました。



歌川広重画/保永堂版「東海道五十三次 四日市三重川」(博物館蔵)



装飾須恵器 台付三連壺/北中寺遺跡出土
(市指定有形文化財)

この地域の歴史は、古く旧石器時代にさかのぼり、文化財からは四日市の歴史の変遷をうかがうことができます。



久留倍官衙遺跡 (国指定史跡) 八脚門 (復元)



顕正寺 山門 (市指定有形文化財)



仏涅槃図/大樹寺 (県指定有形文化財)



釈迦如来坐像/上品寺 (市指定有形文化財)



東阿倉川イヌナシ自生地 (国指定天然記念物)

陶製燈籠/
万延元年射和萬古製
(県指定有形文化財・
旧重要美術品)



杖衝坂



日永の追分 (県指定史跡)



旧四日市市立図書館 (国登録有形文化財)



旧四日市市役所四郷出張所/四郷村役場 (市指定有形文化財)